

石を割ってみよう

西岡 芳晴¹⁾

はじめに

みなさんは石を割ってみたことはありますか？石は色も形も様々ですが、その割れ方も色々です。何といても硬いものの代表である石を自分の力で割ることができたときには素朴な感動を味わうことができます。そんな体験を通して、子どもたちに様々な種類の石があることを理解してもらおうというのがこの「石を割ってみよう」コーナーです。

このコーナーは、各地を転々としながら毎年開催されている「地域地質情報展」内の体験コーナーの一つとして行われてきたものです。地域地質情報展は産業技術総合研究所 地質調査総合センターが旧地質調査所時代から開催している地質学の普及行事です。この中の一企画である「石を割ってみよう」はほぼ毎年行われている老舗企画で、最近では地質標本館の行事としても行われるようになりました。

イベント当日から

今回は初めての試みとして予約制にしました。石割りブースは2基用意し、一人15分間として、あらかじめ先着順に予約をとりました。順番が回ってきた子どもたちには、まず20種類ほど用意した石の中から割りたい石を選んでもらいます(写真1, 2)。そして、ゴーグルや軍手といった装備をつけてもらい、指導員の指示に従って石を割ってもらいます(写真3)。割れたらその石の破片と標本ラベルをビニール袋に入れ、お土産にします。15分の時間の許すかぎりいくつかの石を割ってもらい、子どもたちには十分満足してもらえたようです。しかし、受付開始からすぐに全部予



写真1 真剣に石を選ぶ子どもたち(地質標本館)。



写真2 小さい子どもも大歓迎です(地質情報展しずおか)。

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 地質情報展, 石割り, ハンマー, 岩石, 体験コーナー



写真3 石割りブースでの石割り(地質情報展きょうと)。

約が埋まってしまう、石割りができなかった子どもも多く、残念な思いをさせてしまいました。

今回の地質標本館でのイベントでは相談コーナーを設けました。石を割った後に、見分け方やでき方などの解説をスタッフから受けることができます。実際に自分で割った石を手には、子どもたちは太古の海や火山に思いをめぐらせることができたことでしょう。

シンポジウムから

今回の子どもと自然学会つくば大会では、初日に標本館イベントとして前項の「石を割ってみよう」を実際に行い、学会員の方々に見学していただいた後、翌日にはそれらを踏まえたシンポジウムも行われました。シンポジウムの中で我々からこれまでの運営の仕方や問題点、今後の展望などを紹介したところ、学会員の方々から様々な意見をいただきました。例えば、実際に同じような行事を実践されている方から、「川原の石のほうがより身近であるし、表面を割ったほうが石の中身が良くわかるので、子どもも割る意欲を強く持てる」といったようなアドバイスをいただきました。また、「実践してみたくても、どのような石をどこに行



写真4 小さい石だつて油断するとなかなか割れません(地質情報展しずおか)。

って手に入ればよいかかわからない」という意見もいただき、情報の提供不足を感じました。今後の活動に役立てたいと思います。

おわりに

「石を割ってみよう」は、実物に手を触れること、それにアクションを起こすこと(壊す)、その反応を五感で感じるということを第1に考えています。「石を割るだけがなんでそんなに楽しいの?」と思われるかもしれませんが、大人になると子ども心はどこかに忘れてしまふのかもしれないね。実際に自分で割ってみませんか。子ども心を取り戻すのにそれほど時間はかからないと思いますよ。

NISHIOKA Yoshiharu (2006) : Let's Hammer Rocks.

<受付:2006年1月6日>